

2026 年の動向

“「保有から統合へ」”

— 世界の競争力はどこへ向かうのか —

(株) ジョンケルコンサルティング 落合以臣

“From Possession to Integration

— Where Is Global Competitiveness Heading?”

Shigemi Ochiai, Jonquil Consulting Inc.

世界はいま、新しい競争の時代に入りつつあります。前号では、「エネルギー争奪戦の時代」と題して、世界の競争が石油、天然ガス、電力といったエネルギーそのものの確保だけではなく、将来の産業や経済を支えるエネルギーシステムをどのように構築するかという競争へ変化していることを取り上げました。しかしながら、世界の動きをもう少し先まで見てみると、さらに大きな変化が始まっているように思われます。それは、「何を持っているか」から「何を組み合わせることができるか」への変化です。20 世紀の国際競争では、石油や天然ガスなどの資源を保有することが大きな力でした。資源を持つ国、資本を持つ企業、大規模な生産設備を持つ産業が世界経済の中心となってきました。しかしながら、AI やデジタル技術が急速に社会へ浸透する現在、その構造は変わり始めています。AI を動かすためには、計算能力が必要です。計算能力を支えるためには半導体が必要であり、それを大規模に運用するデータセンターには電力が必要です。そして、半導体、電力網、デジタルインフラなどを構築するためには、多様な鉱物資源や高度な製造技術も必要になります。実際、IEA (国際エネルギー機関) は 2026 年の **Critical Minerals Outlook** で、重要鉱物をエネルギー安全保障だけでなく、高度製造、AI・デジタルシステムなどにも不可欠な存在として位置づけ、サプライチェーンの強靱化と多様化の必要性を指摘しています。つまり、これまで別々の産業として考えられてきた (Energy × Technology × Resources × Talent) が、一つの競争基盤として結びつき始めているのです。

AI 競争は、エネルギー競争でもあります。AI の急速な発展は、この変化を象徴しています。AI という言葉から、多くの人はアルゴリズムや半導体、データを想像するでしょう。しかしながら、その背後には巨大な物理インフラがあります。データセンター、発電設備、送電網、冷却設備、半導体製造設備、そしてそれらを支える材料やサプライチェーンです。2026 年の世界のデータセンターについては、AI、エネルギー制約、地政学的変化によってデジタルインフラが新しい段階に入りつつあるとする分析も出ています。このことは、AI 競争が単純なソフトウェア競争ではないことを意味しています。AI 競争は、半導体競争であり、データセンター競争であり、そしてエネルギー競争でもあります。

一つの技術だけを見ていては、世界で起きている変化の全体像を理解することが難しくなっているのです。「資源」の意味も変わる同時に、「資源」という言葉の意味も広がっています。これまで戦略資源といえば、石油、天然ガス、石炭などが中心でした。しかしながら現在では、それだけではありません。重要鉱物、半導体関連材料、電力、計算能力、データ、技術、そしてそれらを扱う人材まで、産業を成立させる多くの要素が戦略的重要性を持つようになっています。特に重要鉱物については、単に資源が存在するかどうかではなく、供給網をいかに強靱化し、多様化するかが国際的な課題となっています。IEA も 2026 年版の報告で、政策、市場、技術、設備、さらには人材にまで視野を広げてサプライチェーンの強靱性を論じています。

ここでも重要なのは「保有」だけではありません。資源を持っても、それを加工する技術がなければ十分な産業競争力にはなりません。技術があっても、安定したエネルギーがなければ生産できません。エネルギーと技術があっても、それらを担う人材や産業基盤がなければ、新しい価値へ変換することは難しいでしょう。

世界の競争力を決める要素が、より複雑に結びつき始めています。最後に残るのは「人」、そして、この新しい競争を考えるうえで、もう一つ忘れてはならないものがあります。再度申し上げます、それは人です。AI が高度化すればするほど、人間の役割が小さくなると考えられることがあります。しかしながら私は、むしろ逆の側面もあると考えています。エネルギーと AI をつなぐ。材料技術と半導体をつなぐ。研究と産業をつなぐ。異なる専門分野をつなぐ。こうした「異なるものを結びつける力」は、これからますます重要になるでしょう。研究者、技術者、起業家だけではありません。異なる分野の知識を理解し、それまで関係がないと考えられていた技術や産業の間に、新しい関係を見いだせる人材です。人材もまた、エネルギーや技術と並ぶ重要な戦略要素になっていくと考えられます。

こうして世界の変化を俯瞰すると、一つの方向性が見えてきます。エネルギーを持つ。資源を持つ。技術を持つ。データを持つ。人材を持つ。20 世紀から現在まで、世界の競争力は、こうした「保有する力」に大きく左右されてきました。しかしながら、これからはそれだけでは十分ではないでしょう。重要になるのは、Energy × Technology × Resources × Talent をどのように組み合わせ、新しい産業、新しい技術、新しい価値へ変換できるかという能力です。言い換えれば、Integration becomes competitiveness. 「統合する力そのものが、競争力になる。」という時代への移行です。これは国家だけの問題ではありません。企業にも同じことが言えるでしょう。自社の技術だけで未来をつくるのではなく、異なる企業、異なる産業、異なる研究領域の技術や知識を結びつけ、新しい組み合わせを生み出す。これからのイノベーションは、一つの巨大な技術革新だけから生まれるのではなく、すでに存在している異なる技術や知識の間に、新しい関係を見いだすことから生まれるのかもしれない。

世界の競争力はどこへ向かうのだろうか。20 世紀の世界は、資源をめぐる競争しました。21 世紀に入り、技術、情報、そしてエネルギーをめぐる競争が世界の産業構造を大きく変えています。そして、その先に新しい競争が始まりつつあります。エネルギー・技術・資源・人材、これらを個別に保有するだけではなく、どのように結びつけ、新しい価値を生み出すことができるのか。世界の競争力の本質は、「保有する力」から「統合する力」へと、静かに、しかしながら確実に、その方向へ動き始めているのではないのでしょうか。